

豊洲新市場予定地における 土壌汚染対策等に関する専門家会議

第1回（平成19年5月19日実施）



豊洲新市場予定地の「土壌汚染対策の妥当性」を専門家の目で検証します

豊洲新市場予定地には、かつてガスの製造工場があったことなどから、土壌汚染が確認されています。東京都は、現行法令に照らして問題のない水準で、土壌汚染対策を行うこととしていますが、都民や市場関係者の一部になお懸念の声があります。市場が生鮮食料品を扱うことの重要性から、都民が安心できる市場とするため、土壌汚染対策等を検証する専門家会議を設置しました。

委員氏名（敬称略）	役職名	担当分野
ひらた たてまさ 平田 健正（座長）	和歌山大学システム工学部 教授（学部長）	有害物質
もりさわ しんすけ 森澤 眞輔	京都大学大学院工学研究科 教授	水 質
こまい たけし 駒井 武	独立行政法人産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 副研究部門長	土 質
うちやま いわお 内山 巖雄	京都大学大学院工学研究科 教授	環境保健

第1回会議では、東京都から、土壌汚染状況調査や対策等について説明し、委員による討論を行いました。

東京都からの説明（土壌汚染の調査と対策）

豊洲新市場予定地の履歴	昭和30年頃、海面を埋立て 昭和63年まで、都市ガスを製造 （昭和51年まで、原料に石炭を使用）
土壌汚染状況調査	事業者の東京ガス株が、環境確保条例に沿って調査した結果、ベンゼン・シアンなどの有害物質が確認された。
土壌汚染対策	東京ガス株が、操業に伴う有害物質の処理を行った。 今後、東京都が、法令の対象外である操業に因らない物質（自然的要因）を処理し、さらに2.5mの盛土を行う。

主な論点

委員の意見

地下水の上昇・流出 ⇒ 土壌の再汚染・海域への影響の恐れ	<ul style="list-style-type: none">地下水の監視や上昇時の揚水処理が重要れき層の設置により毛細管現象等の上昇を防げる護岸や鋼矢板等により海域への流出を防げる
揮発性物質の影響 ⇒ ベンゼンなどのガス化	<ul style="list-style-type: none">ガス化しても人体に影響のない濃度地下では、隙間から室内に流入する可能性
地震対策 ⇒ 震災による液状化の懸念	<ul style="list-style-type: none">液状化対策として、地盤改良工事を予定その際に、地下水浄化を兼ねることが有効

今回の討論のまとめ

土壌・地下水の追加調査が必要 ⇒ 次回、調査計画を検討
科学的な土壌調査や対策が行われているが、一部、深度方向の調査が必要

地下水の管理が必要

地下水の上昇や地下水を通じて拡散する可能性がある物質への対応策が必要

揮発性物質への対策が必要

ガスが溜まりやすい地下施設の配置などの検討が必要

用語解説

Q. 「毛細管現象」とは？ A. 地下水が表面張力の作用により、土粒子の隙間を縫って上昇する現象。

Q. 「ベンゼン」と「シアン」
とは？ A. とともに有害物質。石炭を原料とする都市ガスの製造過程で生成された。このうち、ベンゼンは常温でガス化しやすい揮発性物質。

次回の会議は、平成19年6月30日(土)を予定しています

詳細は、決定次第、ホームページ上でお知らせします